

### [成果情報]大玉で品質が優れるモモ極晩生種「ゆめかおり」の特性

[要約]モモ「ゆめかおり」は、「ゆうぞら」より 30 日程度、「幸茜」より 15 日程度遅く成熟する極晩生種である。果実重が約 700g と大玉で、果汁が多く、食味が優れる。ただし、花粉がないため、人工受粉が必要である。

[担当]山梨県果樹試験場・栽培部・落葉果樹栽培科・芦澤勇太

[分類]技術・参考

---

#### [背景・ねらい]

モモの新品種は県内外で育成されているが、県内での栽培適応性については不明な点が多い。ここでは、極晩生種のモモ品種のバリエーションが不足していることから、福島県内で「西野白桃」の自然交雑実生から選抜育成された極晩生種「ゆめかおり」について、生育特性や果実品質を明らかにする。

#### [成果の内容・特徴]

1. 「ゆめかおり」の収穫期は果樹試験場（標高 520m）において 9 月上中旬で、「ゆうぞら」より 30 日程度、「幸茜」より 15 日程度遅く、満開から収穫までの成熟日数は 154 日の極晩生種である（表 1）。
2. 花粉がないため人工受粉による結実確保が必要である。核割れは「ゆうぞら」「幸茜」に比べ多いが程度は軽く、商品性に影響しない。生理落果は「ゆうぞら」「幸茜」に比べ少ない（表 1）。
3. 果実重は平均 700g 程度と極めて大玉である。糖度は「幸茜」より低く、酸味を感じるが、果汁が多いため、食味は良好である。着色は良い（表 2、図 1、2）。

#### [成果の活用上の留意点]

1. 本成果は、果樹試験場（「ゆめかおり」「ゆうぞら」は標高 520m、「幸茜」は標高 460m）において、樹形は開心自然形、二重袋を用いた有袋栽培による結果である。
2. 果実が大玉で成熟期間が長いことから、枝が下垂しやすいため、帆柱や支柱などを設置する。また、収穫が 9 月になるため、台風による被害が発生するリスクがある。

#### [期待される効果]

1. 9 月上中旬に成熟する極晩生種として、販路拡大など県内への普及が期待できる。

[具体的データ]

表1 「ゆめかおり」の生育特性 (2016~2020)

品種名	樹齢	花粉	核割れ <sup>z</sup>	裂果 <sup>z</sup>	生理落果 <sup>z</sup>	満開期	収穫期		成熟日数
							始	終	
ゆめかおり	6~10	無	多	無	少	4/11	9/11	9/22	154
ゆうぞら	7~11	有	中	少	中	4/11	8/13	8/21	125
幸茜	15~19	有	中	無	中	4/8	8/25	9/2	139

z)核割れ、裂果、生理落果は5段階（無、微、少、中、多）で評価した

表2 「ゆめかおり」の果実品質 (2018~2020)

品種名	樹齢	果実重	硬度	糖度	酸度	着色 <sup>z</sup>	果汁 <sup>y</sup>	食味 <sup>x</sup>
		(g)	(kg)	(°Brix)	(pH)	(指数)	(指数)	(指数)
ゆめかおり	8	607	2.6	13.3	4.1	4.4	4.4	4.2
	9	738	2.7	14.0	4.1	4.2	4.3	3.9
	10	746	2.5	14.5	4.2	4.0	4.4	4.1
	平均	697	2.6	13.9	4.1	4.2	4.3	4.0
ゆうぞら	9~11	480	2.3	14.2	4.7	4.4	4.1	3.9
幸茜	17~19	504	2.5	16.0	4.4	4.2	4.2	4.3

z)果実の着色面積で、1：0~20%、2：21~40%、3：41~60%、4：61~80%、5：81~100%

y) 1 (少) ~ 5 (多)、x) 1 (不良) ~ 5 (良)



図1 「ゆめかおり」の果実



図2 収穫期の結実状況

[その他]

研究課題名：モモ優良品種の特性調査と栽培技術の確立 (第5次)

予算区分：県単

研究期間：2016~2020年度

研究担当者：芦澤勇太、池田博彦、富田 晃、萩原栄揮